

1. 第3次総合計画における施策の体系

目指す都市像 (政策)	番号	7	名称	快適な生活を育むまち			
施策	番号	9	名称	歴史的町並み及び集落景観の保全			
主担当部	生涯学習部		主担当課	今井町並保存整備事務所		部長名	榎谷 仁志
関係部			関係課				

2. 施策の基本方針(第3次総合計画の基本方針をもとに記入する)

この施策の目的	重要伝統的建造物群保存地区である今井町の歴史的町並景観や大和盆地に見られる特徴的な集落である環濠集落等の集落景観の保全と活用を図り、次世代に引き継いで行くと共に、文化財と住民生活の共存を図り、地域の個性や特徴を活かした魅力や賑わいのあるまちづくりを進めることを目的とする。
---------	--

3. 施策の現状分析(第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する)

この施策の概況	この施策に対する市民ニーズなど、具体的な事項について	社会環境や国・県の動向など、施策を取り巻く環境について
	今井町伝建地区内においては、空家の増加や人口の減少及び高齢化が進み、町から賑わいが失われつつある。地域の活性化という地元からの要望もあり、景観の保全及び住環境の整備を進めて行く必要があるため、早急な町並保存の推進と地区の歴史的資産を活用したまちづくりが求められている。	今井町伝建地区は国内でも屈指の歴史的町並みであり、伝統的建造物等の保存修理事業については、文化財保存のための伝建地区制度の枠組みの中で、継続的に国及び県の支援を受けている。また、住環境整備については、街なみ環境整備事業の再延長について国の承認を受け、継続して事業を進めている。
これまでの成果	今井町伝建地区は国内でも屈指の歴史的町並みであり、伝統的建造物等の保存修理事業については、文化財保存のための伝建地区制度の枠組みの中で、継続的に国及び県の支援を受けている。また、住環境整備については、街なみ環境整備事業の再延長について国の承認を受け、継続して事業を進めている。	

4. 指標及びコストの推移

	名称及び単位等	26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標年度)	備考欄	
		実績	目標	実績	目標	目標		
指標の推移	施策指標① (成果指標)	修理・修景件数	279件	289件	300件	306件	316件	
	施策指標② (成果指標)	街なみ環境整備事業進捗率	88%	91%	90%	90%	97%	
	施策指標③ (成果指標)	来訪者数(今井まちなみ交流センター)	28,703人	38,000人	33,769人	39,000人	40,000人	
	施策指標④ (成果指標)							
	施策指標⑤ (成果指標)							
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算		
	歳出 (直接事業費)(a)		169,860	214,665	195,483	161,366		
	歳入 (b)	受益者負担額	8,646	7,068	9,189	7,242		
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)	112,321	132,206	106,001	102,557		
	(a) - (b) = 一般財源		48,893	75,391	80,293	51,567		
	正職員	従事者数 (単位:人)	6.40	7.40	7.40	6.70		
		人件費(c)	41,600	42,942	42,942	38,880		
トータルコスト (a) + (c)		211,460	257,607	238,425	200,246			

## 5. 施策の評価

有効性の評価	この施策の成果の達成度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の可能性はどうか	1	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	修理・修景事業は順調に進捗しており、住環境整備においても街なみ環境整備事業を再延長し、御堂筋周辺の電線地中化等に着手している。また、地区内の各種団体等が、住民に対する保存についての啓発や様々な取組みを継続的に行っており、空家の増加という課題に取り組む活動している団体もある。今後においても修理・修景等に対する補助制度も充実しており、修理修景事業の進捗が見込まれる。これらの事業を継続することにより、全国でも屈指の今井町の歴史的景観の維持・保全が図られる。				
	市政全般に対する貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	今井伝建地区内においては、伝統的建造物群の保存と景観維持のため、現状変更の規制をかけ歴史的町並みの保存整備を進め、一方で住民の生活改善のため住環境整備を進めている。保存整備を進め町並みの価値を啓発することにより、市民の方々に今井町の町並みは歴史的価値のある観光資源であることを認識していただいております。今後においても檀原市の観光資源として文化財の保存と住民生活が共存した、調和の取れたまちづくりが進められることとなる。				

## 6. 施策の課題

この施策の課題	今井町伝建地区内では、空家の増加、人口減少、高齢化が地区全体の課題となっている。今井町の伝統的建造物等を保存し、歴史的景観を将来に引き継いで行くためには、住民が住み続けながら守って行くまちづくりが必要である。また、地区内の活性化のためには、今井町の歴史的景観を観光資源として活用を図りながら、地区外からの居住希望者を増やす取組みや、空家の活用を促進することが求められている。そのためにも、住民自らが今井町の町並み保存を考え、まちづくりに主体的に取り組むことが重要となる。
---------	---

## 7. 次年度以降の施策の方向性

総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	1	1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明	住民に対して町並み景観及び伝統的建造物の保存の重要性について啓発を行い、町並みの維持保存を図る。また、住民生活の向上と保存の推進を図るため、住環境整備を行う。さらに、空家や環境阻害要因の改善について、各種団体と連携を図りながら景観の向上、維持、保全に努め、町並み景観を有効活用し魅力ある今井町を実現し、将来に引き継いでいく必要がある。			
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明				

## 8. 構成事業の方向性（それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する）

1次評価	説明	町並保存事業と住環境整備事業は、歴史的町並み景観の保全という施策を進める上での両輪となる必要不可欠の事業であり、今後も継続し強化して行く。今井まちなみ交流センター等施設管理運営事業は、今井町伝建地区を啓発し、今井町来訪者の案内、見学、学習施設として必要不可欠であり、今井町の町並み景観を形成する上での重要な建物となっている。今井町公共施設維持管理事業は、地区内での事業に伴い整備された施設であり、維持管理を継続していく必要がある。現時点で、廃止、縮小していくべき事業はないと考える。
2次評価	説明	

## 9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

### ※下記評価の解説

- ・貢献度—事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度(重要度)を絶対評価で示しています。  
(a: 不可欠かつ施策の中核をなす事業、b: 不可欠な事業、c: 不可欠ではないが実施が望ましい事業、d: あまり有効ではない事業)
- ・方向性—事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。  
(拡大する、見直しながらかつ続ける、縮小する、廃止又は休止する、完了する)
- ・優先度(ソフト事業(任意)のみ)—施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。  
(優先度が高い順に A、B、C、D)

この施策に関連する事務事業評価の内容(評価内容の転記)				施策評価		
NO.	課名、事務事業名及び事業種別	事業の内容	事業の方向性及びH27決算額	貢献度	方向性	優先度(ソフト任意)
1	今井町並保存整備事務所 今井まちなみ交流センター等施設管理運営事業 (ソフト(任意))	華蓋は、今井町を訪れる来訪者のためのビジターセンターとして、来訪者に伝統的建造物群に対する理解を深めてもらう為、模型や展示物、パンフレット等を設置している施設であり、また、町並み保存のための各種団体の活動の場として活用する一方、貸し施設として利用いただく施設である。まちなみ広場は今井町への来訪者のための駐車場と地域住民によるイベント広場会場として活用する。まちや館やまちづくりセンターは、体験見学施設としてのみならず、住民活動の場として活用する。	2 現状のまま継続  10,583 (千円)	b	見直しながらかつ続ける	C
	今井町並保存整備事務所 今井町公共施設維持管理事業 (内部管理・維持管理)	今井町来訪者及び地区住民が快適に過ごせるよう以下の事業を実施する。 ・今井町公共施設の清掃を行う。 ・道路等の維持管理を行う。 ・建物及び機械器具に維持管理・修繕を行う。 ・植栽の維持管理を行う。	2 現状のまま継続  11,807 (千円)	b	見直しながらかつ続ける	
3	今井町並保存整備事務所 住環境整備事業 (ハード)	平成5年度に事業計画を策定し、翌年度より道路の美装化、電線の地中化、小公園、生活環境施設、防災施設等の整備を実施し、事業計画策定当初の整備はほぼ完了している。平成16年度には、今井の玄関口に当たる今井東地区を区域に入れ事業計画の変更を行ない、平成20年度より東地区の整備に着手し平成24年度に完成した。平成21年度には事業計画の変更見直しを行ない、電線地中化未整備路線の無電柱化を推進するため、平成30年度まで事業計画の延伸を行っている。また、平成27年度において今井西地区環濠整備実施設計が完成し、平成28年度で今井西地区における環濠の復元的整備を実施する予定である。	1 継続する  69,950 (千円)	a	継続する	
	今井町並保存整備事務所 町並保存事業 (ソフト(任意))	伝統的建造物群保存地区の制度を地域住民の方々に認識していただくための周知啓発を引き続き実施する。また、地域内において、建造物等の修理等が行われる場合については、現状変更協議・許可申請並びに補助金支出の手続き等を的確に行い、関係機関・関係課との連携・調整を図りながら文化財保存事業を実施し、町並み景観の保存を推進する。その他、まちづくりや町並み保存のために活動している地域住民等により構成されている団体に対して支援を行うと共に、町並み保存、空家対策、技術継承のため各種事業を連携・協働して実施する。	2 現状のまま継続  103,143 (千円)	a	見直しながらかつ続ける	B

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年5月26日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( ソフト(任意) ) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	今井まちなみ交流センター等施設管理運営事業							
	担当部名	生涯学習部	担当課名	今井町並保存整備事務所	課長名	日裏 康夫			
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち					
		施策	9	歴史的町並み及び集落景観の保全					
	予算事業名	今井まちなみ交流センター管理運営費							
	事業の開始年度	平成	6	年度	事業の終了予定年度	平成	—	年度	
対象	今井町来訪者及び地区住民			事業の内容説明	華蓋は、今井町を訪れる来訪者のためのビジターセンターとして、来訪者に伝統的建造物群に対する理解を深めてもらう為、模型や展示物、パンフレット等を設置している施設であり、また、町並み保存のための各種団体の活動の場として活用する一方、貸し施設として利用いただく施設である。まちなみ広場は今井町への来訪者のための駐車場と地域住民によるイベント広場会場として活用する。まちや館やまちづくりセンターは、体験見学施設としてのみならず、住民活動の場として活用する。				
事業の目的	歴史的町並みの保存の為、市民の文化、教養の向上を図るとともに伝統的建造物群に対する理解を深め、ふれあいと豊かな地域社会づくりに寄与することを目的とする。								
市の関与の必要性を評価してください	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業						
			2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)						
	説明	伝統的建造物群に対する理解を深め、豊かな地域社会づくりに寄与していただくための施設であり、来訪者のための案内施設及び見学施設として、又、地域住民や団体が行うまちづくり、町並み保存の活動の場としての施設として必要なため。							
やめた場合の影響は	2	1	非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い			
		説明	来訪者の伝統的建造物群に対する理解が弱まり、又、今井の町並み保存を進める地域内の団体の活動を弱め、豊かな地域社会づくりに寄与できなくなる。						
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等		26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標)	
				実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標	来訪者記帳数		28,703	38,000	33,769	39,000	40,000	
	活動指標①	開館日数		303	303	304	303	303	
	活動指標②								
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算	
		歳出(直接事業費)(a)			12,546	11,179	10,583	12,609	
		歳入(b)	受益者負担額			6,926	5,496	7,569	7,234
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)						
		(a) - (b) = 一般財源			5,620	5,683	3,014	5,375	
正職員		従事者数(単位:人)			1.25	2.00	2.00	1.30	
		人件費(c)			8,125	11,606	11,606	7,544	
トータルコスト(a)+(c)			20,671	22,785	22,189	20,153			
単位当たりコスト	計算式等 ( )/( )								
備考 (これまでの実績等)									

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	パンフレット・模型等を活用し地区内の概要(歴史・成り立ち)等を説明することで来訪者の方々に理解していただき、又、各種団体がまちづくりのための会合、講演会等を実施している。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	歴史的町並み景観・集落景観の保全の為、また、伝統的建造物群に対する理解を深めるために、この事業の占める割合は大きいと考えられる。							
評価	効率性評価		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	今井まちなみ交流センターの人件費については、2人分のみ予算計上しているので削減は難しい。今井まちづくりセンター・今井まちや館については、地元保存会に運営業務を委託しており削減は難しい。施設維持管理においては、電気料金等冷暖房の適正管理で光熱費等の削減に努める。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		各施設と今井町のパンフレット及びホームページ等でPRすることや空き部屋を有効活用することで、貸し施設利用率及び来訪者数を増やし、今井町の歴史的町並みの理解を広げることが出来る。各施設を地区の各種団体等が行うイベント・講演等に利用してもらうことにより、今井町のまちづくり・地域の活性化に寄与されることが予想される。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度	C
説明		従事者数については、維持する必要がある。また、老朽化した機器等については、修繕し改善する。								

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年5月26日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( 内部管理・維持管理 ) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	今井町公共施設維持管理事業							
	担当部名	生涯学習部	担当課名	今井町並保存整備事務所	課長名	日裏 康夫			
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち					
		施策	9	歴史的町並み及び集落景観の保全					
	予算事業名	今井町町並み施設管理費							
	事業の開始年度	平成	—	年度	事業の終了予定年度	平成	—	年度	
	対象	今井町来訪者及び地区住民			事業の内容説明	今井町来訪者及び地区住民が快適に過ごせるよう以下の事業を実施する。 ・今井町公共施設の清掃を行う。 ・道路等の維持管理を行う。 ・建物及び機械器具に維持管理・修繕を行う。 ・植栽の維持管理を行う。			
	事業の目的	歴史的町並み景観を保全し、今井町来訪者及び地域住民に快適な空間を提供するため、今井町内の公共施設を適切に維持管理することを目的とする。							
	妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業						
			2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)						
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	説明							
		1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
DO 実 施	指標の推移	名称及び単位等			26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標)
					実績	計画	実績	見込み	見込み
成果指標	来訪者記帳者数				28,703	38,000	33,769	39,000	40,000
活動指標①	維持管理費				9,908	12,002	11,807	11,402	11,402
活動指標②									
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳				決算	当初予算	決算	当初予算	
	歳出(直接事業費)(a)				9,908	11,722	11,807	11,402	
	歳入(b)	受益者負担額			1	1	48	8	
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)							
	(a) - (b) = 一般財源				9,907	11,721	11,759	11,394	
	正職員	従事者数(単位:人)			1.25	1.00	1.00	1.30	
		人件費(c)			8,125	5,803	5,803	7,544	
	トータルコスト(a)+(c)				18,033	17,525	17,610	18,946	
単位当たりコスト	計算式等 ( )/( )								
備考 (これまでの実績等)									

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	来訪者、地域住民の憩いの場として、また、地域住民の生活環境の向上に貢献している。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	今井町公共施設を維持管理することにより、歴史的町並み景観の保全が行われている。							
評価	効率性評価		3	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	今後も契約時は入札により経費軽減に努めるが、施設の老朽化により修繕費用を嵩み、光熱水費については利用者の増加に伴い増えると想定されることから経費削減は難しい。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		維持管理経費を削減すると、今井町公共施設としての適切な維持が出来ず、来訪者及び地域住民に不快感を与え、今井町の良好な町並み景観を損なう恐れがある。伝統的建造物群としての町並み景観に合わせた適切な施設維持管理を行っていく事で、今井町の景観が維持され、来訪者の増加に繋がる事が期待される。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度			
説明			4 廃止又は休止する	5 完了する	今井町は檀原市が誇る歴史的資産であり、多くの来訪者が見込まれるため、適切な水準での施設管理を続ける必要がある。					

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年5月26日)

事業の種類を選択してください。⇒ (  ハード  ) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	住環境整備事業						
	担当部名	生涯学習部	担当課名	今井町並保存整備事務所	課長名	日裏 康夫		
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち				
		施策	9	歴史的町並み及び集落景観の保全				
	予算事業名	今井町住環境整備事業						
	事業の開始年度	平成	5	年度	事業の終了予定年度	平成	30	年度
	対象	事業の内容説明(全体計画) 平成5年度に事業計画を策定し、翌年度より道路の美装化、電線の地中化、小公園、生活環境施設、防災施設等の整備を実施し、事業計画策定当初の整備はほぼ完了している。平成16年度には、今井の玄関口に当たる今井東地区を区域に入れ事業計画の変更を行ない、平成20年度より東地区の整備に着手し平成24年度に完成した。平成21年度には事業計画の変更見直しを行ない、電線地中化未整備路線の無電柱化を推進するため、平成30年度まで事業計画の延伸を行っている。また、平成27年度において今井西地区環濠整備実施設計が完成し、平成28年度で今井西地区における環濠の復元的整備を実施する予定である。						
	事業の目的	今井町重要な建造物群保存地区の歴史的な町並みの保全と活用を図り、住民主体の賑わいのあるまちづくりを進めるため住環境の整備を行う。						
	妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業					
			2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)					
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	説明						
			1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い		
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等	26年度	27年度		28年度	29年度(総計目標)	
	成果指標		実績	計画	実績	見込み	見込み	
	活動指標①	住環事業の進捗率	88	91	90	90	97	
	活動指標②	電線地中化整備率	39	50	50	50	65	
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	
		歳出(直接事業費)(a)		93,970	87,924	69,950	75,530	
		歳入(b)	受益者負担額	1,719	1,571	1,572		
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)	82,921	72,806	30,677	68,397	
		(a) - (b) = 一般財源		9,330	13,547	37,701	7,133	
		正職員	従事者数(単位:人)	2.00	2.00	2.00	2.00	
人件費(c)			13,000	11,606	11,606	11,606		
トータルコスト(a)+(c)		106,970	99,530	81,556	87,136			
単位当たりコスト	計算式等 ( )/( )							
備考(これまでの実績等)	平成27年度事業の受益者負担額については、電線共同溝敷設工事に伴い(関電・NTT・KOP)からの建設負担金を計上しておりますが、平成28年度事業については各住戸への引き込み工事のみとなるため受益者負担額については見込んでおりません。							

CHECK	進捗状況	目標(計画)どおり進んでいるか	3	1 予定通り	2 概ね予定通り	3 達成できていない	
			説明	第7期の電線地中化事業については関連事業者との調整に期間を要し、詳細設計が繰り延べとなった。工事については平成30年度から実施する予定で進めてきており、計画に基づき事業が進捗している。			
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか		1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください			1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない
			説明				
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。						
	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 継続する	2 見直す	3 廃止又は休止する	課内優先度	
修正行動		説明	4 完了する	第6期の電線地中化については、関連事業者との調整も整い、平成24年度から実施した。その他の事業についても、事業計画に基づき実施し、地区内における景観・住環境整備を進める予定である。			

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年5月26日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( ソフト(任意) ) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	町並保存事業						
	担当部名	生涯学習部	担当課名	今井町並保存整備事務所	課長名	日裏 康夫		
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち				
		施策	9	歴史的町並み及び集落景観の保全				
	予算事業名	今井町並保存事業						
	事業の開始年度	昭和	59	年度	事業の終了予定年度	平成	—	年度
対象	今井町重要伝統的建造物群保存地区内において、修理修景事業等を実施しようとする者			事業の 内容説明	伝統的建造物群保存地区の制度を地域住民の方々に認識していただくための周知啓発を引き続き実施する。また、地域内において、建造物等の修理等が行われる場合については、現状変更協議・許可申請並びに補助金支出の手続き等を的確に行い、関係機関・関係課との連携・調整を図りながら文化財保存事業を実施し、町並み景観の保存を推進する。その他、まちづくりや町並み保存のために活動している地域住民等により構成されている団体に対して支援を行うと共に、町並み保存、空家対策、技術継承のため各種事業を連携・協働して実施する。			
事業の 目的	重要伝統的建造物群保存地区に選定されている今井地区において、伝統的建造物群の保存に対する住民意識の向上を図り、文化財の保存と継承及び景観保全に向けた取り組みを進める。また、地域住民と行政が連携協力することにより、町並み保存と住民生活が共に成り立つまちづくりを進める。							
妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)					
		説明	文化財保護法143条第1項の条文に基づき、市が伝統的建造物群保存地区を定め、条例で該当地区の保存のため、政令の定める基準に従い必要な現状変更の規制について定めるほか、その保存のため必要な措置を定めているため。					
	市の関与 の必要性を 評価してく ださい	やめた 場合の 影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い	
		説明	今井地区内の建造物における修理・修景事業が遅れ、建造物が老朽化し町並み景観の維持が出来なくなる。					
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等		26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標)
				実績	計画	実績	見込み	見込み
	成果指標	修理事物数/伝統的建造物物件数(504件)		55	57	59	60	62
	活動指標①	伝統的建造物等の修理事物数		279	289	300	306	316
	活動指標②							
	コストの 推移  (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算
		歳出(直接事業費)(a)			53,436	103,840	103,143	61,825
		歳入 (b)	受益者負担額					
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)		29,400	59,400	75,324	34,160
		(a) - (b) = 一般財源			24,036	44,440	27,819	27,665
正職員		従事者数(単位:人)		1.90	2.40	2.40	2.10	
		人件費(c)		12,350	13,927	13,927	12,186	
トータルコスト(a)+(c)			65,786	117,767	117,070	74,011		
単位当 りコスト	計算式等 ( )/( )							
備考 (これまでの 実績等)								

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	1	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	修理・修景事業を実施していただくために、特に老朽家屋や長屋(借家)等の所有者への「働きかけ」を、積極的に行っている。また、その際に今井地区内における規制や補助制度等についての説明を具体的に行うことにより、修理・修景事業が進捗し、町並みの景観が維持されている。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	今井地区内における建造物等の修理・修景事業を実施することにより町並み全体としての景観が向上し、歴史的町並み景観の保全に対しても非常に有効で貢献度は高い。							
評価	効率性評価		1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	橿原市伝統的建造物群保存地区補助金交付要綱の補助基準の中で、事業者が修理・修景事業を実施される場合の補助率等が定められており、これをもとに査定をおこない補助金の交付決定額を算出しているため低減の余地はない。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		今井町重要な建造物群保存地区内においては、老朽家屋が多数あったが平成27年度において相当数の修理事業を実施することができた。しかし、修理費用が嵩む大規模な建造物(特に長屋建て建物)については莫大な修理費用がかかるため、個人での事業実施が困難な状態となっている。今後は産学民官等が連携し建物の活用案等を検討・提案することにより、事業実施に向けて取り組む必要があると考える。このことにより、町並み全体としての景観が維持され、歴史的町並み景観の向上に繋げることが期待できる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください		2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		B
説明		今井町重要な建造物群保存地区における保存整備計画について、平成21年度において見直しをおこなったところである。今後は、この整備計画に基づき整備する必要があると考える。また、見直しを必要とするケースが出てきた場合は、検討し、見直しを行い継続的に事業を行う必要があると考える。								